【Letter to the Editor】

癌手術 11 回後の 28 年間元気だった患者は何を語るか

After being enforced cancer surgery 11 times, the patient with a healthy 28-year wanted to tell us what !

田澤賢次 *

Kenji TAZAWA*

富山医科薬科大学（現 富山大学）名誉教授

Emeritus Professor of Toyama Medical & Pharmaceutical University

【キーワード】大腸癌手術, 結腸癌, シイタケ菌糸体, 癌自然治癒

Key words : Cancer Surgery, Colon Cancer, Lentinus Edodes Mycelia(LEM), Cancer natural healing

80歳で亡くなられた元総看護師長さん、亡くなる前まで外来に一ヶ月に一回元気に通院されていた患者さんだった。今から33年前の昭和57年1月にS状結腸癌にて開腹され、肉眼所見では、P1, H0, S3, N2(+), StageIVのために、手術はnon-cura Bと判断されたがhigh anterior resectionが施行された(病理はpapillotubular adenocarcinoma)。同年9月右下腹部の転移腫瘍摘除術、昭和58年2月左そけい部転移リンパ節郭清術と残存S状結腸合併切除術、同年10月右そけい部転移リンパ節の郭清術、昭和59年4月回盲部と腸間膜転移リンパ節合併切除術(手術時間7時間)、同年11月再度の右そけい部転移リンパ節郭清術および転移性膀胱部分切除術、同年12月右そけい部再々転移リンパ節摘除術、昭和60年4月腸間膜転移リンパ節のために腸閉塞、転移性腸間膜リンパ節および小腸合併切除術(手術時間7時間)、昭和61年2月左そけい部転移リンパ節郭清術、昭和62年1月腸間膜転移リンパ節のために再び腸閉塞、腸間膜転移リンパ節、小腸合併切除および左横隔膜転移部分切除術(手術時間7時間)、平成3年4月に開腹手術が10回に及ぶという理由から婦人科の医師は私に子宮頸癌の手術を依頼してきたために、全身麻酔下になる11回目の子宮全摘術(手術時間4時間)を施行した。このように11回の全身麻酔下に着癌に対する摘除あるいはリンパ節郭清手術が行われた患者であり、当然腹腔内の腹膜と腸間膜リンパ節とに癌の遺残があることは疑うべくもなかった。28年経過し亡くなる前にも、腫瘍マーカーも正常値を示し、再発の徴候がないことから癌の自然治癒した症例と言って過言ではない。

ここでこの症例にどのような抗癌剤や免疫賦活製剤が術後に投与されたかを振り返ってみると抗癌剤としてはフルツロンなどが微量経口投与されている。免疫賦活製剤としては当時私共がラットを用いて治験していたシイタケの学名Lentinus Edodesと菌糸体Myceliaの頭文字を取った醗酵椎茸菌糸体成分から熱抽出されたLEMが連日6g、数年間にわたり長期投与された記録が残っているのみである。特に強力な抗癌剤投与がされなかったことが幸いしたのかもしれない。このように術直後から水溶性リグニン、5単糖アラビノースとキシロースを主成分とする醗酵椎茸菌糸体成分から熱抽出されたLEMが長期に投与されたことが自然治癒メカニズムを賦活化したとしか思えないのである。

受理日: 2016年1月19日

* 〒939-0364 富山県射水市南太閤山7-18 Tel: 0766-56-5631 Fax: 0766-56-5631 E-mail: tzawa@vanilla.ocn.ne.jp